



千葉大学 アカデミック・リンク
オンライン オープンディ

ALPS履修証明プログラム(120時間)のご紹介

千葉大学アカデミック・リンク・センター
我妻 鉄也

大学院人文公共学府 大学教育・学修支援コース（博士前期課程）



総括的テーマ

プロジェクト研究・実習（1、2）

総合的テーマ

教育学修支援マネージメント（1、2）

履修証明プログラム

（120時間）

基盤的テーマ（教育支援モジュール）

- 6) 教育・学修におけるDX
- 7) 教材開発支援と著作権
- 8) 教育プログラムの設計と評価

基盤的テーマ（学修支援モジュール）

- 9) アカデミック・アドバイジング
- 10) 学習環境の設計と評価
- 11) 教育・学習の方法と学修支援サービス



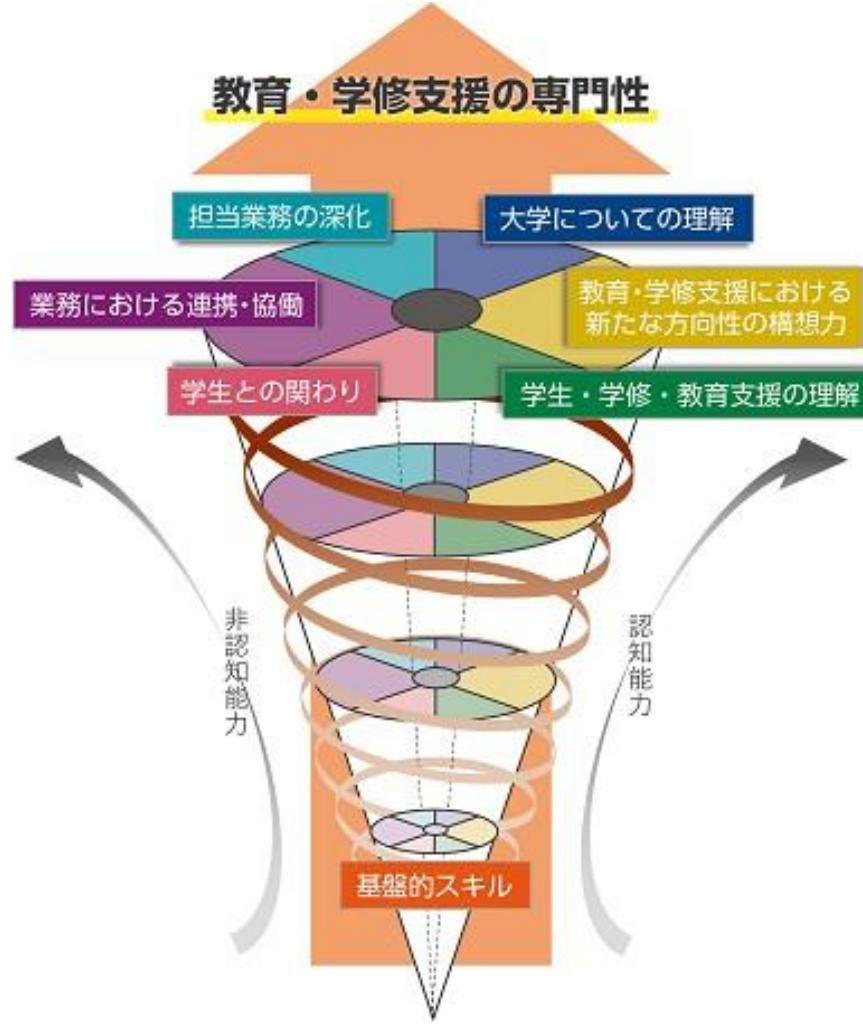
基盤的テーマ（コア・モジュール）

- 1) 高等教育をめぐる政策動向
- 2) 自校理解
- 3) 学生・学修の調査と分析
- 4) 学生の抱える困難の理解と支援
- 5) 高等教育の国際化対応

ショートコース
履修証明プログラム

エントリーレベルプログラム（8時間、2025年度開始予定、対面）

教育・学修支援の専門性に必要な能力項目(2023年)



教育・学修支援の専門性に必要な能力項目

- ✓ 大学について理解を深める
- ✓ 学生・学修・教育支援の理解
- ✓ 担当業務を深める
- ✓ 学生と関わる
- ✓ 業務において連携・協働する
- ✓ 教育・学修支援の新たな方向性を構想する

➤ プログラムに参加することを通じて6つの能力項目についての知識、手法、応用力を身に付けるとともに、教育・学修支援の実践との往還によって、教育・学修支援の専門性を高める。

教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック(2023年)

- ▶ 「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」における6領域について、その能力の内容を段階を踏まえて具体的に記述したもの
- ▶ 「C:知識として身に付いている」「B:身に付けた知識を説明できる」「A:知識やスキルを実践の場の問題解決に応用できる」「S:知識やスキルを発展させ、指導することができる」の4段階で提示

目的	S 知識やスキルを発展させ、指導することができる	A 知識やスキルを実践の場の問題解決に応用できる	B 身につけた知識を説明できる	C 知識として身に付いている
大学について理解を深める ・高等教育・社会・教育に関する理解 ・所属大学についての理解	・高等教育の現状について批判的に分析・検討し、所属大学における教育のあり方について具体的な改善案を策定し、実践の場で提案することができる。	・高等教育を取り巻く社会・経済情勢や政策動向から、所属大学の教育の現状について批判的に分析・検討し、組織上の構造的な問題を特定し、解決策や改善策を提示することができる。	・大学で教育研究されている学問領域全体の体系性や内容、構造についての理解に基づき、所属大学の教育の特徴や個々の施策・規則の意義や課題について説明することができる。	・国内外の大学に関する歴史や制度、法規、政策、取り巻く環境などについて基本的な理解を示すとともに、その中の所属大学の理念や特色、位置づけを把握している。 ・学生や教育に関わる一般的な知識(学生の学習や発達、教育課程や教育方法など)を有している。 ・所属大学の学生や教育の特徴を把握している。

▶ 教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック(2023年)の全体像

目的	S 知識やスキルを発展させ、指導することができる	A 知識やスキルを実践の場の問題解決に応用できる	B 身に付けた知識を説明できる	C 知識として身に付けている
大学について理解を深める ・高等教育・社会・教育に関する理解 ・所属大学についての理解	・高等教育の現状について批判的に分析・検討し、所属大学における教育のあり方について具体的な改善案を策定し、実践の場で提案することができる。	・高等教育を取り巻く社会・経済情勢や政策動向から、所属大学の教育の現状について批判的に分析・検討し、組織上の構造的な問題を特定し、解決策や改善策を提示することができる。	・大学で教育研究されている学問領域全体の体系性や内容、構造についての理解に基づき、所属大学の教育の特徴や個々の施策・規則の意義や課題について説明することができる。	・国内外の大学に関する歴史や制度、法規、政策、取り巻く環境などについて基本的な理解を示すとともに、その中の所属大学の理念や特色、位置づけを把握している。 ・学生や教育に関する一般的な知識（学生の学習や発達、教育課程や教育方法など）を有している。 ・所属大学の学生や教育の特徴を把握している。
学生・学修・教育支援の理解を深める ・学生の現状理解 ・教育内容の把握 ・学生支援・学修支援・教育支援の設計と実施 ・学生支援・学修支援・教育支援活動の改善	・学生の支援ニーズを調査し、学生のニーズにあわせた学修支援を設計・開発し、効果的に実施することができる。 ・様々な教育領域における教育上の最新の改善課題、論点、教育方法を把握し、個別の授業にあわせた教育支援に活用することができます。 ・学生支援・学修支援・教育支援の結果を検証し、評価、改善することができます。	・個々の学生に応じた学生支援・学修支援に関する内容・方法を選定し、必要な支援を設計、提案することができる。 ・所属大学全体の教育課程の概要を理解した上で、学内外の先進的な取り組み事例を参考に、個別の授業に対して教育支援を具体的に提案することができる。	・学生が抱える課題や困難を理解し、個々人の学生生活や学習上の課題を踏まえた学生支援・学修支援について説明することができる。 ・学修支援に必要な教育領域における教育上の最新の改善課題、論点、教育方法を説明することができる。	・教育支援や学修支援の担当者に必要な法令遵守の意識、倫理観を身に付けている。 ・学生の多様性を理解し、個々の学生に応じた様々な学生支援・学修支援があることを認識している。 ・学修支援に必要な教育課程の基本的枠組み、個々の授業が扱っている教育内容の概要、教育方法を把握している。
担当業務を深める ・担当業務に関する知識 ・情報収集・整理・分析・発信 ・課題の設定と問題解決 ・様々な経験とその活用	・所属箇所における課題を発見し、改善することを目的に、課題設定、データ収集・分析、対応策の立案、実施を自律的に実現することができる。 ・担当業務に関連する新たな取り組みを企画立案し、周囲の協力を得て、実行することができます。	・学内外の先進的な取り組み事例を参考にし、担当業務に応用することができる。 ・担当業務に関連する情報やデータを収集、整理、分析をした上で、業務上の課題や問題を発見し、解決策や改善策を提案することができる。 ・担当業務における課題や問題を改善するために、必要に応じて、これまでの業務内外の経験を活用することができます。	・担当業務に関する学内外の最新動向・情報やデータを収集、整理、分析し、担当業務との関連性を説明することができる。 ・担当業務についての予算的裏付けや会計上の位置づけを説明することができる。 ・これまでの業務内外の経験を現在の担当業務に活かしており、その関連性を説明することができる。	・大学における担当業務を行うために必要な知識を有している。 ・学生や教育など業務に関する情報の収集、整理、保管に関する法令や規則、倫理を理解している。 ・担当業務を行う上で必要な情報収集や分析方法を身に付けている。
学生と関わる ・学生対応に関する知識 ・学生対応への基本的姿勢・態度 ・多様な学生への対応	・学生の対応に関わる学内外の利用可能な資源の現状について批判的に分析・検討を行い、より効果的な支援の体制・あり方を、実現可能性を含めて、企画・設計し、構築するなど、学生の対応について指導的役割を果たすことができる。	・学生対応に関する国内外の様々な事例を参考し、必要に応じて、個々の学生のケースに適用し、学生対応に活用することができます。 ・学生の問題や困難を解決するため、カウンセリングやアカデミック・アドバイジングの知識・スキル、関係法令の知識、学内外の利用可能な資源を活用し、効果的に対応することができます。	・カウンセリングやアカデミック・アドバイジングの基本的な知識に基づき、留学生を含む多様な学生や困難を抱えた学生に対する効果的なコミュニケーションの在り方を説明できる。 ・問題や困難を抱える学生に対応するために、所属大学における保護者との関わり方、医療機関等の学内外の利用可能な資源の現状、関係法令について説明できる。	・学生が入学から卒業までに直面する問題や困難を理解し、問題や困難を抱える学生に対応や支援を行う上で必要な基本的知識（メンタルヘルス、カウンセリング、アカデミック・アドバイジング、関係法令、学内外の利用可能な資源など）を身に付けている。 ・学生の立場で考えることの重要性を理解しているとともに、学生との適切な心理的距離感を保つことを意識している。 ・多様な学生層へのコミュニケーション方法を理解している。
業務において連携・協働する ・チームワーク ・人的ネットワークの構築 ・教職員との連携・協働 ・ステークホルダーとの連携・協働	・学内外の組織横断的な、あるいは困難な担当業務について、リスクや不測の事態も想定し、先を見通した計画を立て主導的に実行することができる。 ・他者との連携や協働して業務を行うことの強みを活かして、高い成果を生み出すことができる。 ・自主的に研修会やシンポジウム等に参加し、情報交換の機会を通じて学内外に幅広い人のネットワークを形成しており、人的ネットワークを活用することで、様々な情報を収集し、所属大学の業務改善・開発に生かすことができる。	・担当業務の進め方を絶えず見直し、担当業務の効率化や改善に取り組むことができる。 ・業務を遂行するにあたり、率先して取り組むとともに、協働する他者の強みや弱みなどの特性を理解し、業務への自他のモチベーションを高めるなど、チームを活性化し、業務の効率と効果を高めることができる。 ・学内に人的ネットワークを形成するとともに、どのような関係者と協働すれば効果的に業務が遂行できるか把握しており、必要に応じて、関係する教員や他箇所の職員等と連携し、調整しながら業務をやり遂げることができる。	・担当業務の意義や大学全体から見た役割を理解しており、職務に対して意欲的に取り組むことができる。 ・チームで業務を進めるにあたり、自分の考えを伝えつつ、他者との合意形成を図り、協調的に業務を推進することができる。 ・大学教員の仕事や役割についての理解に基づき、業務で関わる教員の特性を把握し、他箇所の職員等との連携を含めて、協働する体制を構築するための働き掛けを行うことができる。	・所属大学の方針や業務の流れを把握し、正確に業務を行うため、学内規程等を自分で調べたり、必要に応じて関係者に確認することの重要性を理解している。 ・業務を遂行する上で困難が生じた場合は、周囲に助けを求めるなど、チームワークを意識している。 ・担当業務以外の業務や学内の取り組みについて関心を持ち、所属大学内の他箇所の職員と関わる機会に積極的に参加するなど、開かれた態度や行動を示す。
教育・学修支援の新たな方向性を構想する ・先導的・先進的な教育支援・学修支援の構想力 ・教育・学修支援での新たなテクノロジーの活用	・新たな制度や先端のテクノロジーを用いた先導的・先進的な教育・学修支援や教育活動の構想について、指導的役割を果たしながら、実現することができる。 ・学外や学内の他箇所から新たな教育・学修支援や教育活動の構想について助言を求められた場合、適切な助言を行うことができる。	・所属大学における教育・学修支援や教育活動を効果的なものにするため、新たな制度や枠組み、先端のテクノロジーを用いて、先導的・先進的な教育・学修支援や教育活動を構想することができる。	・高等教育の新たな制度について説明することができる。 ・教育・学修支援においてテクノロジーを活用する上で遵守すべき関係法令や倫理について説明することができる。 ・教育・学修支援や教育活動において使用されているテクノロジーの仕組みについて説明することができる。	・高等教育の新たな制度（例えばマイクロクレデンシャルなど）を理解している。 ・教育・学修支援においてテクノロジーを活用する上で必要な法令の遵守の意識、情報倫理観を身に付けている。 ・教育・学修支援や教育活動において使用されている先端のテクノロジー（デジタル認証やVRなど）を理解している。

ALPS(アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成)履修証明プログラム

- ▶ 千葉大学アカデミック・リンク・センターが教育関係共同利用拠点の事業として実施する、大学等の高等教育機関における職員の方の教育・学修支援の専門性を高めることを目的とした体系的なプログラム
- ▶ 2017年のプログラム開設以来、約90名が修了。2023年度にはALPS履修証明プログラム(120時間)に加え、ALPS履修証明プログラムショートコースA(教育支援)・ショートコースB(学修支援)(各64時間)を開設
- ▶ 各プログラム・コースは「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック(2023年)」の6つの目的に対応するかたちで、研修プログラムとして設計
- ▶ 各プログラム・コースにて、指定するテーマを修了した方には、学校教育法第105条の規定に基づき、履修証明書を授与

履修証明プログラムとは、学校教育法第105条に基づく仕組みであり、大学の積極的な社会貢献を促進するために、社会人等を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム(履修証明プログラム)を特別の課程として開設し、その修了者に対して履修証明書を交付するもの。
文部科学省の規定により、60時間以上の学習プログラムで構成されることとなっている。

ALPS履修証明プログラムの構成



カリキュラムマップ

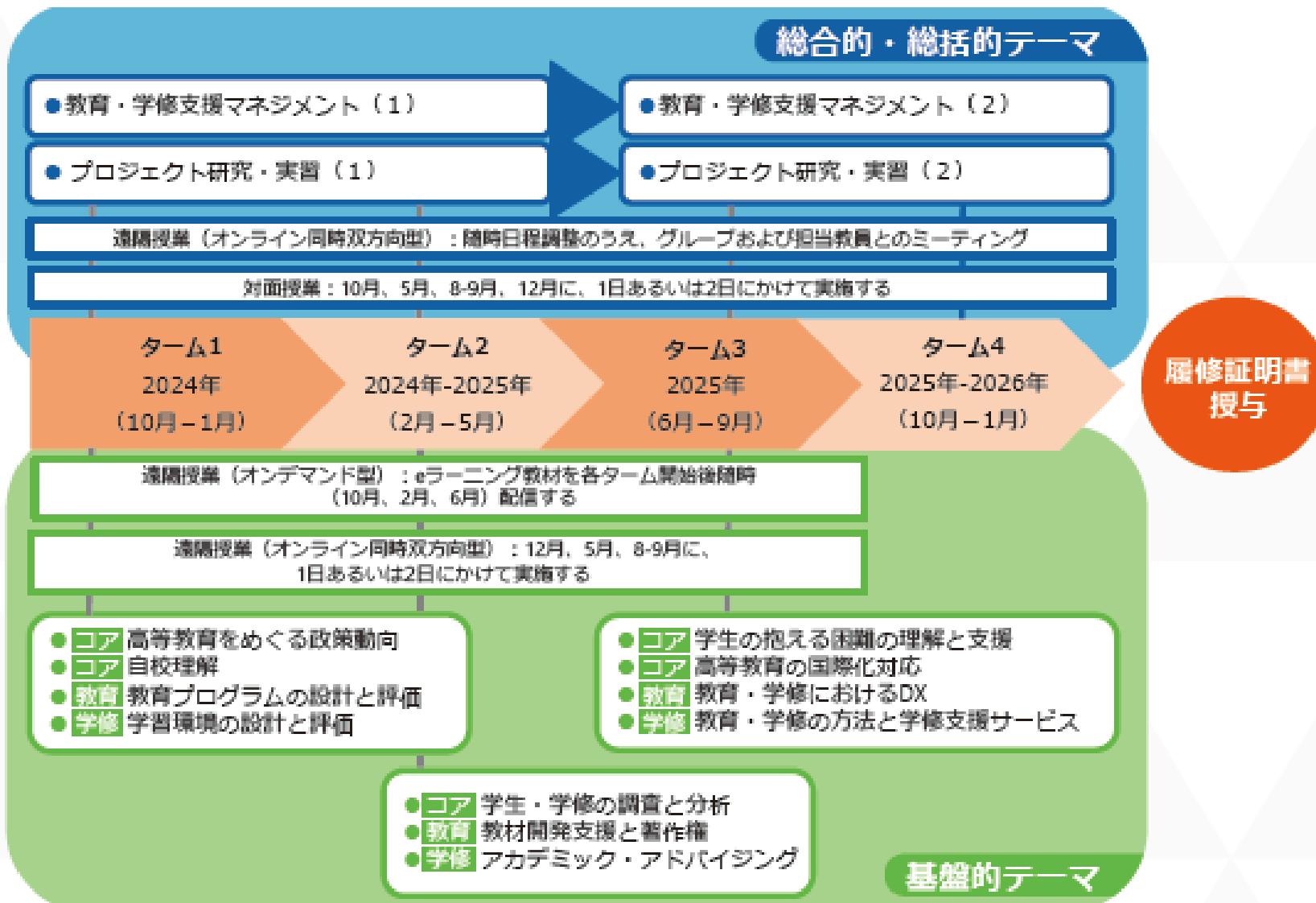
各テーマが、ループリックの各目的のS・A・B・Cの段階のどこに対応するかを示したもの	プログラム15テーマ														
	基盤的テーマ														
	コア				教育支援			学修支援			総合的テーマ	総括的テーマ	プロジェクト研究・実習(1)	プロジェクト研究・実習(2)	
	高等教育をめぐる政策動向	自校理解	学生・学修の調査と分析	学生の抱える困難の理解と支援	高等教育の国際化対応	教育・学修におけるDX	教材開発支援と著作権	教育プログラムの設計と評価	アカデミック・アドバイジング	学習環境の設計と評価					
大学について理解を深める ・高等教育・社会・教育に関する理解 ・所属大学についての理解	C	B	C	—	C	—	—	B	C	C	B	C	B	A	A
学生・学修・教育支援の理解を深める ・学生の現状理解 ・教育内容の把握 ・学生支援・学修支援・教育支援の設計と実施 ・学生支援・学修支援・教育支援活動の改善	C	—	B	B	C	B	B	B	B	B	B	C	B	A	A
担当業務を深める ・担当業務に関する知識 ・情報収集・整理・分析・発信 ・課題の設定と問題解決 ・様々な経験とその活用	C	C	C	C	C	C	B	C	—	C	—	C	B	A	A
学生と関わる ・学生対応に関する知識 ・学生対応への基本的姿勢・態度 ・多様な学生への対応	—	—	—	B	B	C	—	—	B	—	—	C	B	A	A
業務において連携・協働する ・チームワーク ・人的ネットワークの構築 ・教職員との連携・協働 ・ステークホルダーとの連携・協働	B	C	C	C	C	B	C	B	B	B	B	C	B	A	A
教育・学修支援の新たな方向性を構想する ・先導的・先進的な学修支援・教育支援の構想力 ・教育・学修支援での新たなテクノロジーの活用	—	—	C	—	—	B	B	C	—	—	C	C	B	A	A

能力ループリックにおける目的

- ALPS履修証明プログラムの各テーマと「能力ループリック」の対応関係を示したもの
- 各テーマを通じてどのような能力を身に付けることができるのかを可視化
- ALPS履修証明プログラム(120時間)では「能力ループリック」のAの段階に

ALPS履修証明プログラムのスケジュール

ALPS履修証明プログラム (120時間)



➤ 1年4か月の履修期間に15テーマすべてを履修

➤ 「基礎的テーマ」遠隔授業(オンデマンド型)を10月、2025年2月、6月に開講

➤ 「基礎的テーマ」遠隔授業(オンライン同時双方向型)を、12月、2025年5月、8月-9月に、1日あるいは2日間で実施

➤ 「総合的テーマ」「総括的テーマ」対面授業(集合型、オンライン併用)を3回(ターム1・3・4)に分けて開講

「総合的テーマ」は「ターム2」に遠隔授業(オンライン同時双方向型)を実施

「ターム4」には「総合的テーマ」「総括的テーマ」の成果報告会を開催

「総合的テーマ」ではグループワーク、「総括的テーマ」では担当教員による指導を遠隔授業(オンライン同時双方向型)で隨時実施

基盤的テーマの受講について

- 基盤的テーマの各テーマは、8時間で構成される。
- 各テーマは遠隔授業(オンデマンド型) + 遠隔授業(オンライン同時双方向型)で構成されるもの、遠隔授業(オンデマンド型)のみで構成されるものがある。
- 各テーマでは遠隔授業(オンデマンド型)でのオンデマンド教材の視聴や遠隔授業(オンライン同時双方向型)への出席が求められる。
- テーマによっては、遠隔授業(オンライン同時双方向型)に向けた事前課題の提出、遠隔授業(オンライン同時双方向型)後に課題の提出、LMS上での確認テストの受験等が課される。
- 遠隔授業(オンデマンド型)におけるオンデマンド教材の視聴期限については、
ALPS履修証明プログラム(120時間)/千葉大学SULA研修: 2026年1月31日
であるが、テーマによっては遠隔授業(オンライン同時双方向型)実施前に視聴完了を求めるものある。
- 各テーマの詳細については、遠隔授業(オンデマンド型)の「テーマの概要」に関する動画を確認すること。

以上でALPS履修証明プログラムについての説明を終了します。